

環境モデル都市行動計画 ～CO₂削減の進め方と削減目標～

《CO₂削減の進め方》

富山市（行政）

- ・富山市は公共交通の活性化を推進
- ・まちなか居住への支援
- ・新エネルギーなどの導入支援

など

行政・市民・企業が一体となってCO₂削減を実践

市民

- ・公共交通の積極的な利用
- ・まちなかへの住み替え
- ・ゴミの減量化などのエコライフの推進
- ・森林ボランティアなどへの積極的な参加

など

企業

- ・環境負荷低減設備の導入
- ・通勤などでの公共交通の利用促進
- ・エコ商品の開発・普及などのエコ企業活動の推進

など

《取組方針とCO₂削減目標》

部門	CO ₂ 削減に向けた取組方針	中期削減目標 2030年(H42)	長期削減目標 2050年(H62)
運輸	1 公共交通の活性化の推進	2005年比 30%減	2005年比 50%減
家庭	2 中心市街地や公共交通沿線への機能集積の推進		
業務	3 コンパクトなまちづくりと一体となったエコライフの推進		
産業	4 コンパクトなまちづくりと一体となったエコ企業活動の推進		

新成長戦略(平成22年6月閣議決定)に位置づけられた「21の国家戦略プロジェクト」の一つ

国が戦略的取組を行う「環境未来都市」を選定し、関連予算の集中や規制改革等の支援を講ずることにより、環境・超高齢化等の対応の面で、世界に類のない成功事例を創出するとともに、その成功事例を国内外に普及展開することを通じて、新産業の創出や地域活性化など、我が国全体の持続可能な経済社会構造の実現を目指すもの。

※平成25年6月に閣議決定された新たな成長戦略「日本再興戦略」
にも位置づけられた

富山市を含む計5都市(被災地域を除く)が選定される(平成23年12月)

選定理由

LRTなどの公共交通を核としてコンパクトシティを目指す
戦略的な提案であり、地方都市の抱える課題の解決モデル
になり得る

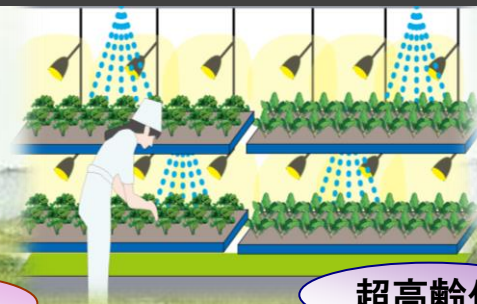


環境未来都市計画に位置づけた主な取り組み内容

再生可能エネルギーを活用した農業活性化



薬用植物栽培工場の構築



ヘルシー&交流タウンの形成



LRTネットワークの形成



環境

公共交通の活性化

中心市街地・公共交通沿線での
都市の諸機能の集積

再生可能エネルギーの活用

超高齢化

歩いて暮らせるまちづくり

薬用植物生産システムの構築

人との触れ合いによる介護予
防・在宅支援サービス

地域コミュニティ主体の交流空間



農業・森林・林業

農商工連携による富山ブランドの育成

森林資源の有効活用による林業の
自立モデルの構築

里山再生を担う人材育成拠点の整備

農山村地域コミュニティビジネスの創造



セーフ&環境スマートモデル街区の整備



市内電車環状線(H21.12開業)



新幹線高架下へ乗入れ(H27.3開業)



FUTURE CITY TOYAMA

LRTネットワークの形成 ～富山ライトレールの整備～

利用者の減少が続いていたJR富山港線を公設民営の考え方を導入し、日本初の本格的LRTシステムに蘇らせた取り組み

<路線概要>

- 開業日：平成18年4月29日
- 延業長：7.6km
(鉄道区間6.5km、軌道区間1.1km)
- 電停数：13
- 車両数：7編成(2両1編成)
- 所要時間：約25分(富山駅北ー岩瀬浜)

<運行サービスの向上等>

運行間隔の改善、新駅の設置、低床車両の導入、ICカードの採用
バリアフリー化、アテンダントの配置、フィーダーバスの運行 等

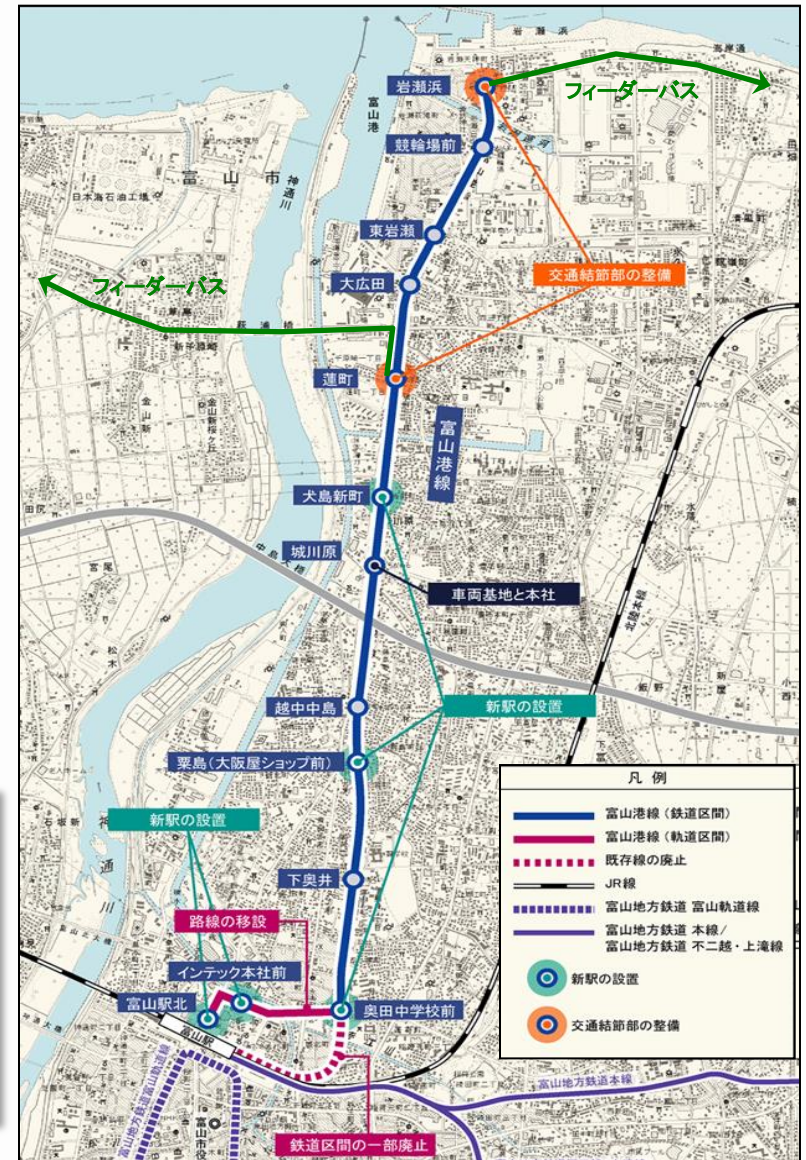
日本初の本格的LRTとして再生



▲旧JR富山港線

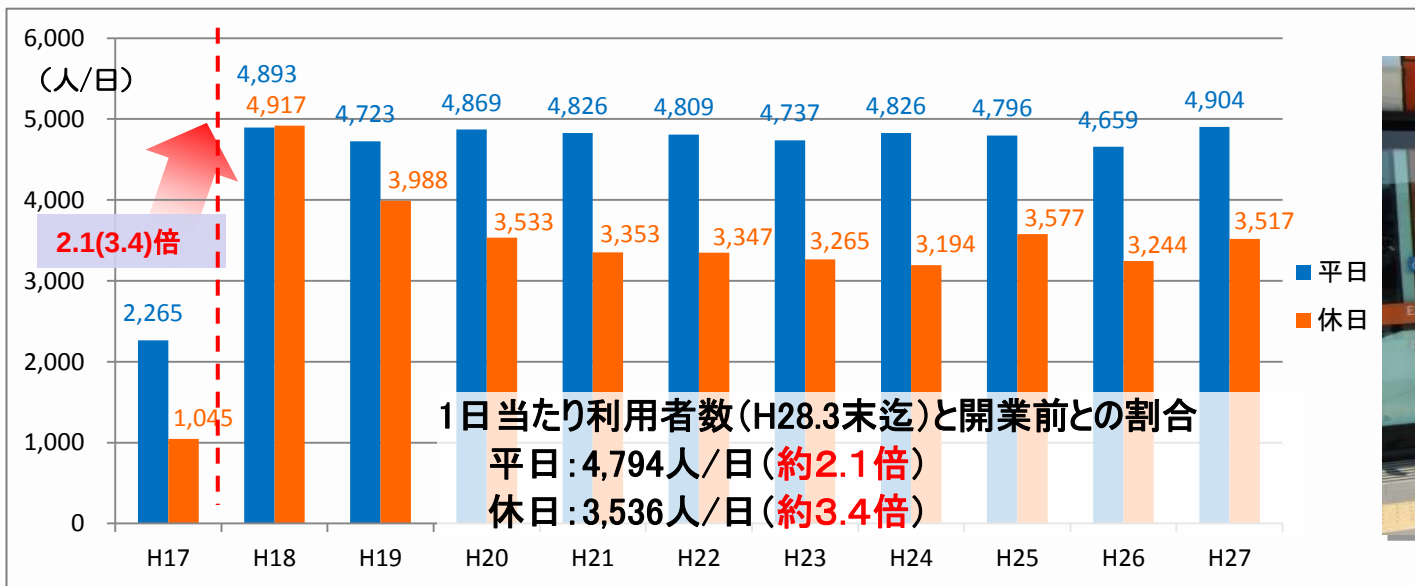


▲富山ライトレール（愛称ポートラム）



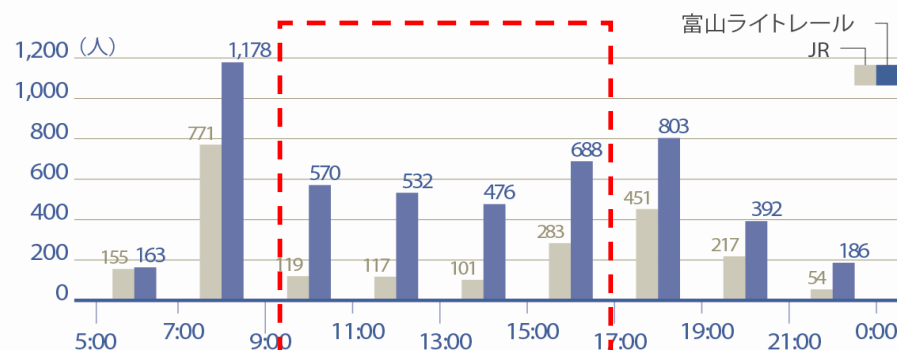
LRTネットワークの形成 ～富山ライトレールの整備効果～

■開業前と比較して、利用者数が 平日で約2.1倍、休日で約3.4倍へと大幅に増加

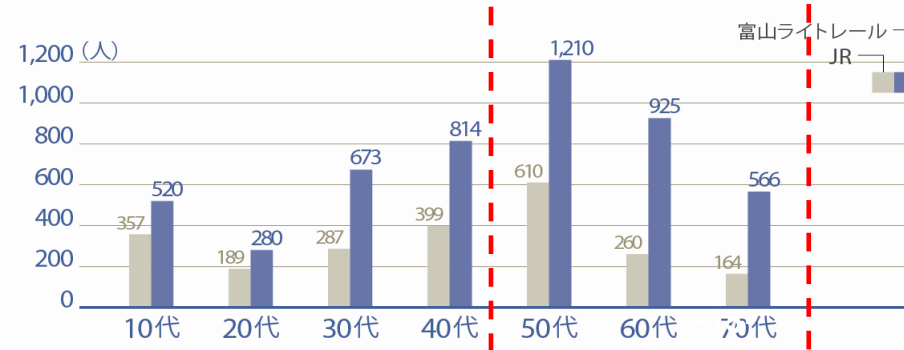


■日中の高齢者の利用が増加(ライフスタイルの変化)

1日あたり 時間帯別の利用者数の変化(平日)



1日あたり 年代別の利用者数の変化(平日)



北陸新幹線開業を契機とし、富山駅高架下での路面電車の南北接続を実現

【2013年】

- ・軌道運送高度化実施計画の認定
- ・新幹線高架下から南側を整備



【2015年】

- ・北陸新幹線の開業 (2015.3.14)
- ・新幹線高架下から南側の供用開始
(新幹線高架下の新停留場)



【2019年度末予定】

- ・在来線高架下から北側の供用開始
(路面電車の南北接続が実現)

世界に類を見ない、新幹線と平面LRTの接続を計画

▲富山駅南口から走る路面電車

公共交通の活性化 ～自転車市民共同利用システム「アヴィレ」～

中心市街地の20箇所に設置された専用ステーションから、自由に自転車を借りて任意のステーションに自転車を返却することができる、新しいコミュニティサイクルシステムを導入

<システム概要>

- 供用開始 : 2010年3月20日
- 運営主体 : シクロシティ株式会社
- 自転車数 : 220台
- 利用時間 : 24時間、365日
いつでも利用可能
- 事業目的 : ①CO2排出量の削減
②中心市街地の活性化
と回遊性の強化



ステーションMAP



市内電車環状線

中心市街地や公共交通沿線への機能集積の推進

まちなかや公共交通沿線への居住を推進するため、
良質な住宅の建設事業者や住宅の建設・購入する市民
に対して助成

都心地区(約436ha)

〔まちなか居住推進事業(H17.7～)〕

＜事業者向け＞共同住宅:100万円/戸

＜市民向け＞戸建住宅:50万円/戸 等

実績:807件 1,901戸(H17.7～H27.3)

公共交通沿線居住推進地区(約3,489ha)

〔公共交通沿線居住推進事業(H19.10～)〕

＜事業者向け＞共同住宅:70万円/戸

＜市民向け＞戸建住宅:30万円/戸 等

実績:511件 1,122戸(H19.10～H27.3)

＜路線＞

鉄軌道全て(6路線)

頻度の高いバス路線(13路線)

(1日概ね60本以上(往復))

＜エリア＞

用途地域内における駅勢圏、バス停圏

(圏域) 鉄軌道駅圏は500m

バス停圏は300m

